

国道 31 号等 呉駅交通ターミナル整備事業計画検討会（第 1 回）

議事概要

日 時：令和 2 年 9 月 8 日（火）15:00～17:00

場 所：国土交通省広島国道事務所 5 階会議室

出席者：別紙のとおり

議 事

1) 審議

- ・規約（案）を了承する。
- ・羽藤委員を本検討会の座長とする。

■委員からの主な意見

2) 検討の背景

- ・MaaS を含めた交通のソフトの部分の展開や災害時に防災拠点になることを想定すると、交通ターミナルの建築敷地のとり方が非常に重要。
- ・災害時においては、駅前施設での情報提供や帰宅困難者を一時収容することなどの役割を意識し検討することが必要。

3) 検討会について、交通ターミナルについて

- ・呉駅周辺を含め、トータルデザインとして議論することが必要。
- ・待合施設からバス停への利用しやすい動線の確保が必要。
- ・将来の新たなモビリティへの対応もふまえた、交通ターミナルの形状を検討しておくことが必要。
- ・呉駅前から国道 31 号を越えて北側の商店街へ人が流れる動線を考えることが必要。
- ・一般車両や歩行者が安全に利用できるように、動線や待機スペースを考慮しておくことが必要。
- ・足の不自由な方もおられるため、送迎スペースと駅との位置関係などレイアウトを考える上で考慮が必要。
- ・デッキは、1 階部分全体を覆うのではなく、歩行者の動線もふまえて採光や採風を考慮して考えることが必要。
- ・デッキは、平常時と災害時の対応やコロナによる生活習慣の変化を踏まえて機能配置や空間構成に可変性をもたせることや、平面的な配置に加えて、上下方向の縦の動線の検討が必要。
- ・バスやタクシーだけでなく、将来の新しい交通の姿や高齢者も安心して使える新しい次世代モビリティなど、呉市の交通軸と都市軸について検討を行い、その受け皿が交通ターミナルとなるようにすべき。
- ・駅前広場や道路空間などに関して、賑わい空間や次世代モビリティ走行空間などへの活用についても検討が必要。

- ・次世代モビリティの計画やアフターコロナの需要などの将来の不確実性をふまえた議論が必要。
- ・強靱性と効率性の両立を図ることが重要であり、平常時と災害時に機能する仕組みが望ましい。
- ・交通ターミナルの将来の管理・運用の在り方も議論することが必要。

以 上

第1回「国道31号等呉駅交通ターミナル整備事業計画検討会」
出席者名簿

氏名（敬称略）	所属・役職等
羽藤 英二	東京大学大学院工学系研究科教授
塚井 誠人	広島大学大学院工学研究科准教授
神田 佑亮	呉工業高等専門学校教授
鈴木 克宗	一般財団法人道路新産業開発機構理事
山本 直人	西日本旅客鉄道株式会社広島支社企画課長
沖口 武司	広島電鉄株式会社バス事業本部呉輸送営業部長
火岡 潤哉	一般社団法人広島県タクシー協会呉支部長
河合 智明	独立行政法人都市再生機構西日本支社副支社長
松浦 利之	国土交通省中国地方整備局道路部長
村上 威夫	国土交通省中国地方整備局建政部長
荻野 宏之	国土交通省中国地方整備局広島国道事務所長
古川 信博	広島県土木建築局総括官（土木整備）
的場 弘明	広島県土木建築局総括官（建築技術）
山田谷 清	広島県警察本部交通部長
大木 晋 （代理）武島 雅樹	広島県呉警察署長 （代理）広島県呉警察署交通課長
濱里 要	呉市副市長